

科学史技術史通信

特定非営利活動法人
科学史技術史研究所
田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫

No.23
2011.10.20

165-0027 東京都中野区野方1丁目29番1-B101

Website URL: <http://ihst.jp/> e-mail: ihst@ihst.jp



日本のマツダ(東洋工業)の製作したロータリーエンジンは、元来 Felix Heirich Wankel(1902-1988)が第2次大戦中での開発をもとに戦後発明したものである。マツダ以外にもライセンス譲渡は多くある。上の写真は、1966年ドイツ民主共和国のアイゼンハフ自動車会社で Wartburg353 用に試験されたもの。同国での開発は1969年に中断された。ドレスデン交通博物館所有。



F.H.Wankel
と wankel
engine
(Wikipedia)

ヴァーシングさんのこと一つ二つ

秋間 実

前号(22号、9/20)で同教授の訃報に接しました。ものの本によると1927年10月生まれでしたから、道家達将さんや老生などとほぼ同い年で、享年84。淋しいことです。1970~80年代にいささかおつきあいがあった者として、生前の温容を偲びながら、思い出などを書かせていただきます。

1 通訳、ベルリンでの再会、など

頭のどこかにこびりついていながらも鮮明に思い出されるのが、氏が道家さんに東工大客員教授として招かれてたしか2度目の来日[※]を果たされた

注:1回目は、1974年8月に東京で開催された第14回国際科学史会議のときだったはず。わたしは、同行の諸氏(H. Hörz, G.Gröber, H.Laitko)とは芝田進午さんといっしょに会って交流しましたが、ヴァーシングさんとは会いませんでした。そもそも氏のことは名まえをはじめにも知っていませんでした。

機会に、わたしの勤務先=都立大学の教室でなされた講演、その通訳をつとめたときのことです。どういう経過でこの役割がわたしに振り当てられることになったのかは、わかりません。何しろ突然の話で、なんの準備もなく手もとに要旨のメモもなく、いわゆるぶっつけ本番でしたから、あわてました。フランス革命の時代に活躍したモンジュ(Gaspar Monge,1746-1818)の画法幾何学(géométrie descriptive)についてのお話だったようですが、そもそも「モンジュ」などという名まえはそれまで聞いたことがなかったし、「画法幾何学」(ドイツ語で darstellende Geometrie)も初耳で、聴衆の一人が見かねてくむかし中学で習ったはずの「用器画」のことですよと教えてくれたりした、といった“低空飛行”でしたから、うまく通訳できたはずがありませんでした。げんに、聴講した某君が、<あ、先生、訳し落としました>気がついた個所がいくつかあった、とあとで語っていました。それでも、この講演はテープで録音されて、これを札幌で何人かで再生して聴いた、と、後日、荒川 泓さんから伺いました。

通訳と言えば、氏が電気通信大学で中川直哉さんの授業の一環として行われた入門的講義も、通訳しました。今回は、手控えの原稿もみせてもらえていたので、ほぼ完璧に学生諸君に内容を伝えることができた、と確信しています。

そのほか、たとえば東工大の「火ゼミ」のクリスマス・パーティー(?)に同席して、ヴァーシング夫人が届けてくださった本場のシュトレン(Stollen)を一同で賞味しながら懇談した、ということなども思い出されます。

うれしかったのは、その後1980年に東ベルリンで開かれた世界科学者連盟(WFSW)第12回総会に日本科学者会議(JSA)代表団の一員として出席したおりに、氏が夫人とともにわざわざライブツィヒからオンボロ(失礼)自家用車を駆って宿舎 Hotel Stadt Berlin まで会いに来てくれたことです。再会をよるこびあい、ひるの食事をごいっしょしたあと、歩いてフンボルト大学へ行って、構内を案内してもらいました(なん枚も写真を撮りましたが、帰国後1枚もものになっていなかったのは不思議で、残念です)。夕方、夫妻は、手を振るわたしに派手にクラクションを鳴らして答えながら陽気にベルリンを去っていかれました。

原発問題連続講座 日時・場所に変更があります、ご注意ください

第5回 11月5日 15:00~17:00 中野区商工会館

戦後の原子力の議論(1952年~1955年) 学術会議・茅・伏見提案から原子力基本法へ 山崎正勝東京工業大学名誉教授

第6回 12月10日(土) 15:00~17:00 中野区商工会館

アイゼンハワー「アトムズ・フォー・ピース」演説から日米原子力協定 山崎正勝東工大名誉教授

第7回 1月14日(土) 15:00~17:00 中野区商工会館

英国コールドハーホール炉の導入から:奥田謙造(予定)

ホームページをご覧ください。問合せ 080-5901-0730

2 自然科学史の大きな編著書のことなど

木本さんが前号に氏の著作について詳しく紹介して下さっていますが、老生は、これになお自分が愛蔵するつぎの大型の編著書(564 ページ)を加えてもよからうと、と考えます。それは、

Hans Wußing (Hrsg.), Geschichte der Naturwissenschaften, Edition Leipzig, 1983 です。

1名を除いてあとはカール・ズードホフ研究所の(若手)メンバーであるらしい7名を指揮してまとめられた(ご自身もたっぶり書いておられる)力作です(各自の執筆分担は明記されています)。珍しい写真を多数まじえながら、数学・自然諸科学・技術の発展を、原始社会におけるその起源・萌芽から始めてはるばる現代の戦争・公害にいたるまで、つまり、その偉大な諸成果・有益な諸達成にも、その歪曲・悪用による諸犯罪にも、ともに立ち入って詳しくたどっています。目は世界各地に向けられており、例えば日本については、関 孝和・蘭学・伊能忠敬・湯川秀樹・ヒロシマ/ナガサキ・水俣を取り上げています。

わたしは、氏から寄贈されたあとざっと目を通し拾い読みしながら、「伊能」が S.123 に(索引でも)Ido と書かれ、「水俣」が S.512 に Minimata と表示されている誤りに気づき、氏に通報しました。「腹立たし(ärgerlich)」という反応がまもなく返ってきました。

氏の単著 Newton は、訳出・出版を企て、氏も実現に期待を寄せてくれていたのですが、意外にも難物で、翻訳を断念してしまいました。申しわけないことです。他方、W.プルケルトとの共著論文「ドイツ民主共和国における科学史の教育と研究」は、訳出して『日本の科学者』168号(1982年1月)に載せてあります(単著で「ドイツ民主共和国の科学史30年」(たしか 30Jahre Wissenschaftsgeschichte der DDR)という論説があったはずですが、じつはこちらのほうを訳したかったのですが、現物が手にはいりませんでした)。

その後ご無沙汰のうちに日を週を月を年をすごしてしまい、1989年以後の激動の年どしにも、ライブツィヒの状況に思いをはせながら、お見舞い・問い合わせを送りませんでした。この薄情! この筆無精! いつものことで、救いようがありません。せめてお詫びし、ご友情に感謝し、ご冥福をお祈りしましょう。合掌。

(2011年10月9日)

大量のGHQ資料:今も眠ったまま

< 情報提供 日野川静枝 >

(本文は、会員配布の印刷体をお読みください。購読可です。)

島村原子力政策研究会資料

(本文は、会員配布の印刷体をお読みください。購読可です。)

島村原子力政策研究会資料目次

参考: 上記講師の職位

(本文は、会員配布の印刷体をお読みください。購読可です。)

最近の寄贈書類紹介

以下の寄贈を頂きました。御礼申し上げます。

* 金森修編著『昭和初期の科学思想史』勁草書房 2011.10 (梶雅範氏より)

序章・金森「<科学思想史の来歴と肖像>」、第1章「素粒子物理学と競争的科学観の帰趨」(岡本拓司)、第2章「眞島利行と有機化学研究伝統の形成」(梶雅範)、第3章「日本人起源論と皇国史観」(坂野徹)、第4章「日本漢方医学における自画像の形成と展開」(慎蒼健)、第5章「生物学と歴史哲学」(板橋勇仁)

* 京大地球物理学研究の百年(Ⅲ)(京大地球物理の歴史を記録する会)2011.10.15 発行 寄贈いただきました。(竹本修三氏より)

目次:はじめに(竹本修三)、1. 京大地物研究の百年(収録Ⅰ、Ⅱに続く)、2. 地鉱・宇宙教室及び工学部で行われた地球物理学研究、3. 思い出に残る京大の講義・演習・実験・論文指導等、おわりに(竹本修三、廣田勇)

* 申在均『朝鮮歴史と有機化合物』109頁 (2011.7.20 発行)

* 丹青会『丹青』8号 2010.5.1 222頁 B5。(申在均氏より寄贈)

紹介: Hans Weinberger『放射線防護の父 シーベルトの生涯』(山崎岐男訳)考古堂書店 1994.2 198頁 (紹介: 木本忠昭)

(本文は、会員配布の印刷体をお読みください。購読可です。)